

リーディング項目以外からの評価（第3回委員会のご意見から）

1. 図書館を利用したことがない人への啓発・PR

「豊中市の教育に関するアンケート調査単純集計結果概要（図書館抜粋版）」は、日ごろ図書館を利用していない人たちの意見を把握し、対策を考える上で参考になる。

特に、このアンケート結果の10頁の「豊中市立の図書館を利用しない理由」を見てみると、「場所が分からない」「利用したい時間が合わない」と回答された方は、これらの理由が改善されると潜在的な利用者になっていく可能性がある。このようなアンケート結果を活用し、アンケート回答者（利用者）に還元していくことで、利用者の増加にも繋がっていく。

また、子どもの利用状況は高いのに比べ、大人への利用状況が低い。このことも、大人への啓発・PR不足であると思われる。

2. 図書館の施設・整備

最近では車社会でもあるので、駐車場の有無が図書館の利用状況にも影響しているかもしれない。

しかしながら、豊中市の図書館の場合、一番大きな駐車場がある野畑図書館で15台程度、東豊中図書館で10台程度である。決して駐車上に恵まれた環境ではないが、豊中市には図書館が9館あり、「歩いて、自転車で利用できる範囲で地域に根付く図書館である」ことを、豊中市の基本姿勢としている。ただし、図書館の未整備地域については、既存サービスの拡大又はその時代に合った図書館の資源の再分配を検討し、常に時代にあった図書館サービスを維持できるよう努めていく必要がある。

また、豊中市立図書館利用者アンケート調査結果の中に「自習室を整備してほしい」との意見があった。本を借りるだけでなく、静かに勉強できるスペースを求められている利用者もいる。一方で、千里図書館のようにある程度の広さを持つ施設であったとしても、図書を閲覧できるスペースがないとの利用者の声を聞いている。これらの意見は対照的なものである。

図書館は図書館本来の機能を確保しながらも、利用者ニーズにあったサービス・環境整備を、常に利用者の声を聞きながら、対応していく必要がある。

3. 図書館の地域性

図書館には地域に根付いた地域性があり、この地域性を大切にしていかなければならない。

例えば、南部地域には豊中市全体20%程度の方の居住区域であるが、少子高齢化が進んでいる地域でもある。この庄内図書館は、公民館及び老人福祉センターとの複合施設であることから、地域の居場所としての役割を持つことや、他の施設に来られたついでに利用してもらうこともできる。

図書館は、資料を貸し出すという主たる機能以外にも、地域ニーズに即したサービス展開及び対策を進めていく必要がある。